

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ(チューリップユニット)		
所在地	簸川郡 斐川町 今在家403-1		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の食事作り、及び食後の片付けなどを専門の厨房員さんが行われている事業所さんが増えてきており、当苑も考えたことがありましたが、オープン以来の約4年半、毎日欠かさずことなく日々介護職員とご利用者として行なってきました。それはご利用者自身がご自分の日課、役割として心得ていらっしゃる、唯一自主的に取り組まれていることだからです。以前に比べ、徐々に手間を要するようになってきたが、ご利用者の自主性を尊重した支援に今後も努めていこうと考えています。又、外部から来てくださるボランティアさん方からは「ここは初めて来たのにご利用者さんの反応がいいですね、笑顔がいいし、質問したことにすんなりと答えが返ってきます」と。そんなその人らしさが日々気軽に表出している支援に今後も努めてまいります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成22年2月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の見やすいところに掲示している。又毎月の職員会議の際には、皆で声に出し唱和をし、少しでも意識を高めるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物や散歩で近隣の方と触れ合っていたり、町内のふれあい祭りの参加を毎年継続している。昨年は隣の神社のお祭りや近隣の農場ファームのぶどう狩りに招待をいただきそれぞれ出向いて楽しませていただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年より年2回地域向け広報を発行しており、苑での活動や行事等を掲載している。又年に1回だが地域の高齢者の方をお招きし、手芸教室を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に行っている。役場、地域の民生委員、駐在所の方、またご利用者の方には無理のないように配慮しながらそれぞれに参加していただき、出された意見について前向きに検討、改善している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的にはないが2ヶ月に一回の運営推進会議では極力ケアサービス内容をお伝えしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の窓は日中施錠していない。ご利用者の気分や状態の把握に努め、徘徊により外出される際はさりげなく見守り同行している。施設内、居室内においても見守りの徹底に努め身体拘束は行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、身体のチェックも必ず行っており、虐待についても見過ごさないよう注意している。学ぶ機会は新任者研修にて行ってきたい、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年苑行事の際、専門職による利用者のご家族へ成年後見制度について説明する機会を設けた。その際職員は参加できなかったが、後日詳しく書いてある書類を回覧することで職員は学んだ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおり行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を常時設置している。ご家族からの意見や要望は職員会議にて話し合い対応している。苦情があった場合はご家族に納得していただけるまで話し合い、その経過や結果は運営推進会議でも報告している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にユニットリーダーに、問題ある場面等で意見を聞き取るなどしてきた		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については4月に見直しを実施、また個々の努力、意欲等に着目しそれを賞与に反映した。職場環境については会議などで引き出せるように努めた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	21年秋より毎月苑内勉強会の実施、また苑外研修へもできる限り参加してきた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム実習や交流会への参加など行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者と職員が来訪、面談し要望などお聞きしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者と職員が来訪、面談し要望などお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの聞き取りと本人の状況を拝見させていただくことでアセスメントを行い、入所に至ることになった一番の障害に着目しプラン作成し、それに向け職員がチームケアに取り組んだ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作りや片付け、畑作業、買い物など職員と一緒にっており、それらが日課とされている方も多し。職員は常に感謝の言葉を伝えており、職員から頼られていることに自信を取り戻されている方もいらっしゃる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との絆は大切にしており面会時間や電話等の制限を設けていない。月に一度書面にてご本人の状況を家族に報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方によっては友人が定期的に面会に来られており、居室でできる限りくつろいでいただけるように配慮している。又なじみの場所へ出かけたリドライブに行ったりして思い出していただけるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え席順には配慮している。利用者同士の会話が少なかつたりうまくいかない場合には職員が間に入りコミュニケーションを図っている。又月に一度両ユニット合同のお茶会やレクリエーションを企画し隣ユニットの利用者の方ともコミュニケーションを取れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への数回の訪問は必ず行っている。又当苑での認知症研修への参加の呼びかけ等も行うなどの支援をした		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにてその方の状況を共有している。お茶会時の話題で、どんなところへ行きたいか、何を食べたいかなどご本人の意思をさりげなくお聴きし、それを実施につなげている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や環境、サービス等は個人のケース記録にファイルされており職員はいつでも見ることができる。う夜勤時などに目を通して把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、ケアプランなどを通して行っている。問題が起こったときには速やかにカンファレンスを行い解決に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したプランについて毎月モニタリングし、特変時には速やかにカンファレンスを行ってきた。また作成する際には、利用者、ご家族の意向をお聴きしプランに取り入れるようにしてきた		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、気づきは個別に記録してあり個人毎にファイリングし、それに目を通すことを主に職員間で共有している。利用者の気持ちや行動の変化を把握しカンファレンス(各人について月に1度以上)にて検討し、状況に応じた支援内容を実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば家族の状況や希望により医療機関の送迎などを行っている。また併設のデイサービスでの行事参加や、デイサービス時間に一部の方はそこに参加される方もいらっしゃる、利用者の楽しみとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、スーパー、公園、神社など身近にある施設を積極的に利用し利用者の方々に楽しんでいただいている。また近隣の中学校から呼んでいただき吹奏楽の鑑賞にも出かけ楽しまれた事がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望を聞いて主治医を決定しているが現在全利用者が苑の協力医をかかりつけ医とされている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で捉えた変化などはかかりつけ医の往診時報告し指示をいただいている。急な場合は臨時往診を依頼し適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族及び病院関係者と連絡をとりあい、又入院先への訪問も必ず行い本人の状況把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時及び入所時に説明をしご理解を得た上で入所していただいている。将来的に在宅復帰が困難な方については早期から特養申し込みについての説明もしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し年に一回救急法の実技研修を受けている。昨年度利用者に心肺停止者があったが、職員の適切な蘇生にて一命をとりとめられた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に消防署に依頼し避難訓練、消火活動、警報機の使い方などの指導を受けている。職員の休憩室には水害時の避難場所の地図が掲示しており、災害時に必要な道具が入っているリュックサックも常備しており、即持ち出せるようにしてある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内研修などにてプライバシー、個人情報の取り扱いについて学び、マニュアルも作成された。排泄介助、声かけ、などプライバシーには配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にはできる限り希望をお聴きし外出先や食事、お菓子、レクリエーションで行いたいことなど日常において自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の流れはあるが本人の気分や体調に合わせてその日を過ごしていただいている。レクリエーション不参加や居室で過ごされていることが多い場合には15分程度ではあるがマンツーマンでのかわりを持ち、本人の意思や体調など傾聴している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等職員が選ぶのではなく、できるだけご本人にも見て選んで頂けるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、食べたいものが聴けたときには献立に生かしている。苑の畑で作った野菜を利用者と一緒に収穫、掃除、料理を行うことで関心を深めるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体重変化や、身体の結果や主治医の助言の下職員が献立を立てている。年2回栄養士に献立を見ていただき、評価を次に生かしている。水分は、自由に飲めるようテーブルの上に常時適温の番茶が入ったポット、湯のみがあり利用者が自由に飲めるようにしている食事、水分が摂取できにくい方は摂取量のチェックし、諸きいん全員で把握し不足しないように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけのみ、磨き残しのみを洗う、全介助など各人に応じた支援を行い、毎食後のケアを実施している。口腔ケア研修会へ参加し、口腔ケアの重要性を学んだ以後。食事前には口腔スポンジで口腔マッサージを行っており誤嚥防止にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせて検討し、自室でのポータブルトイレ誘導の声がけをしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、全利用者の排便状況の確認をすることでその日勤務している職員は把握している。便秘者へは水分補給、腹部へのホットパック、散歩など個々に応じ対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい時間、血圧が安定している時間など個々の状況や希望に応じ入浴していただいている。夕食後の希望者がいらっしやるため19:45分終了の勤務体制を設けている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も無理せず、状況に応じて休息して頂いている。自室で好きな音楽を聴きながら休んで頂いたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3人チェック(薬局、その日の日勤者、服薬担当者)で誤薬のないように努め、薬の変更、追加等あった場合は様子を記録し変化の有無を観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望で日課になっている作業、嗜好等聞いて献立に取り入れたり、外食企画、気分変える外出企画、お好きなことをレクに取り入れたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩(時間を決めて一人でされる方も)や私物の買い物、食材買い、季節にあった外出企画(時には遠出)し、出かけて頂いている。自宅外出、墓参り等は家族さんに協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望で大金を所持している方おられる。私物の買い物時、外出時、自分の支払いは自分の財布をお渡し支払って頂くよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用し、自らかける方もおられる。かけられない方は職員が番号を押してさしあげる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール内、季節にあった飾り付けをしたり、生花ある時は花瓶を置き居心地よくなる工夫している。トイレのわかりにくい方のために、大きな字で戸に表示して声がけしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのこたつに入り、他の方と唄ったり、テレビ観賞する方、和室で一人パズルに集中する方、テーブル席で新聞を読む方と自分の思うように過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人家族と相談しながら居室内の配列をし、居心地良く過ごせるよう工夫している。週1回の掃除の日にはできるだけ本人と一緒に、タンスの整理等もしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように戸に大きな字で表示している。自室がわかるように自室の戸に飾りを付けている。(個々に表札もある)ホールの壁、トイレ、脱衣場、浴槽に手すりが付けてある		